

議会報告会

5月11日と13日の2日間に渡り、市内全8区において、市議会として初めての議会報告会を開催しました。

8区合計で320名の参加をいただき、会場および開催日時についてはおおむね高評価ではありましたが、意見交換会や時間配分については、やや不満の声も頂いております。年2回の開催を予定しており、今回の反省点を踏まえ、次回はさらに充実したものとなるよう努力してまいりますので、多くの市民の皆様からご参加いただきたくお願いいたします。



行政視察

まちなか、地域再生調査特別委員会で、3月21、22日に長崎県視察を実施しました。

佐世保市においては「日本一元気な商店街」と称賛される四ヶ町商店街の取り組みについて、商店街活性化の力強い存在である協同組合理事長の竹本慶三氏よりお話を伺いました。とにかく何でもやってみようということ、できないと言わずどうしたらできるかを考える会議を重ねて行ったとのことで、その結果、人口25万6千人程の佐世保市ですが、平日の昼間でも商店街は活気にあふれています。



長崎市では「長崎さるく」を体験。「さるく」とは長崎弁で、まちをぶらぶら歩くという意味で、観光が主な産業である長崎ですが、平成2年の長崎博覧会開催以来、平成16年まで右肩下がりで観光客が減ったことから、平成18年の長崎さるく博開催に向け、そ



れまでのパビリオン型の博覧会から脱却し、埋もれた資源を掘り起こし、長崎の強みを生かすことで始められ、平成22年にはほぼ回復したとのことで、こちらの商店街も賑わっていました。

中央区でも「えんでこ」まち歩きを実施して好評を得ているところですが、まちなか活性化のために、さらに充実を図っていく必要があります。

お知らせ

来る7月29日(日)に議会報告会を開催いたします。詳細については下記の通りとなりますので、皆様のご参加をお待ちしております。

と き：7月29日(日)10時から11時30分
ところ：新潟ユニゾンプラザ小研修室1
(新潟市中央区上所2丁目2番2号)

申込先：TEL 025-244-1173

FAX 025-244-1183

その他：受付は7月26日までとさせていただきます。お電話での受付時間は9時から16時までとなります。FAXの場合は、「山際つとむ議会報告会」申込みとし、住所、氏名、連絡先電話番号を記載してください。

あとかき

市政に身を投じてわずか1年強ではありますが、これまでに地域、市民の方々から、多くの相談が寄せられました。どんな些細なことでも耳を傾けるよう努力していますが、今後、議論が進んでいく議員定数削減については、議会報告会において話が出ていたものの、日常的にあまり声が聞こえて来ません。選挙が近くなると話題に上りますが、今の時期こそきちんと考える必要があるのではないのでしょうか。皆様の思い、ご意見をお聞かせいただければと思います。

新潟市議会 民主にいがた

2012年夏 第3号



山際つとむ 議会レポート



6月9日から一般公開が始まった旧齋藤家別邸。新たな観光資源として賑わいが期待される。

新年度予算

2月定例会において、新年度予算が可決、成立しました。安心安全の土台の強化を目的とした平成24年度の一般会計の予算規模は3,573億円となり、平成23年度と比較して、23億円、0.6%の減となりましたが、子ども手当(現児童手当)における国の制度変更による影響を除いた実質的な姿では、13億円、0.4%増のプラス予算となっています。

厳しい財政環境は、いましばらく続くものと考えられますが、その用途について、無駄遣いの無いよう、細やかなチェックに加え、しっかりとした政策提言を行ってまいります。

5月臨時会

5月16日から18日の3日間の会期で5月臨時会が開催されました。

主な議案として、4月3日から4日にかけて発生した暴風により被害を受けた農業者、農業施設や農作物に対し、農業生産緊急支援事業として、平成24年度一般会計に9千2百万円の増額補正の他、平成23年度一般会計補正予算及び地域グリーンニューディール条例と市税条例の一部改正など市長専決処分について可決、成立しました。

その他、常任委員、議会運営委員の選任が行われ、私は引き続き環境建設常任委員会所属となりました。

発行/民主にいがた 山際 務 (この議会レポートの発行には政務調査費を使用しています。)

市議会会派控室/〒950-8550 新潟市中央区学校町通1番町602-1

TEL 025-226-3476

山際務事務所/〒950-0941 新潟市中央区女池6丁目2番12号207

TEL 025-285-2106 FAX 025-285-2026

E-mail:tsutomu-y@heart.ocn.ne.jp

URL:http://blog.goo.ne.jp/tsutomu-y_216



←携帯用QRコード

6月定例会

6月定例会は6月12日から7月2日の日程で開催されました。

主な議案のうち、再生可能エネルギー等導入推進事業については、国からの事業採択を受け、事業の更なる推進に向け、新たに設置する基金へ積み立てを行い、有効に活用して行くこととして、歳入、歳出ともに3億5千万円を計上し、これを含む一般会計補正予算は15億568万6千円を増額、今年度予算の総額は3,588億9,768万6千円となりました。

一般議案では、指定管理者の指定に係る1議案は賛成多数、これを除く議案では、現在、整備が進められている「こども創造センター」や「動物ふれあいセンター」など、施設の設置・管理に係る条例の制定や契約の締結については全会一致と、常任委員会に付託された33議案すべてが原案通り可決されました。

議員提案による議案では、柏崎刈羽原発の再稼働に関する意見書は可決されたものの、関西電力大飯原発の再稼働に反対する意見書は否決となりました。また、東日本大震災瓦れきの処理に関する安全確保と情報公開を求めることについての請願では8項目のうち4項目が採択されましたが、残る4項目は不採択となったほか、瓦れきの受け入れに関する陳情も1項目が不採択となるなど、原発や放射能汚染の「安全性」に対する認識はそれぞれ違いがあることから、さらに議論を深める必要があります。

常任委員会

所属する環境建設常任委員会で、付託された議案のうち、新潟市公共交通及び自転車で移動しやすく快適に歩ける街づくり条例の制定について、今回上程された条例の内容に異論は無いものの、昨今、通学路における痛ましい事故が続いたことにより、今後は、より安全性を重視した内容を検討されるよう、要望しました。

また、意見・要望として述べることはできませんでしたが、各部局、各区役所建設課から繰り越しについての報告のうち、その理由として調整、協議に時間を要したとのことで、内容を精査してみると、道路管理者と水道事業者との調整によるものなど、いわゆる内部的な理由が散見されたことから、横断的な連携強化について注視して行きたいと思えます。

一般質問

6月定例会において、分割方式により一般質問を行いました。主な質問項目と答弁は以下のとおりです。



<難病患者支援について>

問 近年、難病相談の多くは働き盛りの世代であり、一度発症し職場を去ってしまうと再就職は困難になってしまう。厚生労働省の難治性疾患患者雇用開発助成金制度がありながら、遅々として進まない難病患者の就労について、企業への周知と合わせて、難病への理解など、行政としてやるべきことがあると思うが、考えについて伺う。

また、本市の財政的負担が生じない支援策として、難病支援自動販売機がある。これを公共施設への導入や、指定管理施設について管理者への導入依頼を行い、難病に対する理解、支援を深めていくことも必要であると思うがどうか。

答 本市においては、医療費助成受給者証の手続きの際に、県の「難病相談支援センター」の案内や就労支援の取り組みなどをお知らせしているが、周知が十分と言えないことから、今後、関係機関と連携を深め、さらに事業所への周知と難病への理解を図っていく。

また、本市では、福祉団体などによる公共施設内の



西新潟中央病院内にある新潟県難病相談支援センター

<自転車利用環境の向上について>

問 現在、中央区をはじめとして今年度も各区において自転車走行レーンの整備が進められているが、現状において、バス停の前後でブルーゾーンが途切れ、その部分については歩道が切り下げられており、どこを通行すればよいか判断に悩む状況となっている。一旦、歩道に上がればバス待ちの列を縫うように走る事となることに加え、荷捌きのため駐停車する車両により走行レーンが有効になっていないとの指摘もあることから、まちなかではそれらを考慮した整備が必要ではないか。



現在整備が進められている自転車走行レーン

また、近年、自転車運転者が加害者となる事故が増しているといわれ、賠償額が6,000万円を超える事例も報告されていることから、自転車傷害保険の加入率向上に向け、普及啓発が必要であると思うがどうか。

答 自転車走行レーンの整備の在り方については、現在、国土交通省と警察庁が共同で、「自転車利用環境整備ガイドブック」の改定を進めていることから、本市においても、バス停部分や荷捌き車両への対策を含め、その結果を踏まえ、関係機関と協議をし、整備を進めていく。

また、本市では参加者の年齢層に応じた自転車の安全指導を実施しているが、中学生以上を対象とした交通安全教育を実施する際に、自転車が加害者となる事例の紹介や、自転車の点検と保険がセットになっているTマークを紹介しており、このほかにも、各保険会社が自動車とのセット保険など、自転車を対象とした様々な保険を取り扱っていることから、今後も交通安全教室などで、自転車保険の加入の必要性について周知し、加入を勧めたい。

<緑の少年団について>

問 政令市となって5年が経過するが、未だ本市において緑の少年団の結成は見られない。平成26年に新潟県で開催される全国植樹祭に向けて緑化推進の機運が高まる中、緑と親しみ、緑を愛し、緑を守り育てる活動を行う、この緑の少年団の必要性について伺うとともに、結成および活動に対する支援や、活動場所の提供なども必要であると考えがいかか。



上越市で活動する緑の少年団

答 緑の少年団は、子供たちの心豊かな人間形成・活動の場として大変重要なものだと認識している。早期に立ち上げてもらい、活動の効果、重要性について全市に周知を図っていく。また、花育マスターの派遣を行っており、緑の少年団の設立や活動については、こうした事業を通じながら支援を行っていけるものと考えている。活動の場所の提供については、設立後の活動状況を踏まえ、更なる支援策について検討していく。

特別委員会

まちなか、地域再生調査特別委員会で6月28日に新潟交通株式会社の視察を行いました。バスロケーションシステムや万代シティバスセンター内についての説明から始まり、新たな公共交通の確立に向けての意見交換会では、規制緩和後のバス交通から考える「公共交通の公共性の構築」などについての説明の後、現状から考える新たな路線についてのイメージについて話を伺いました。乗降者数をはじめ、本市でも把握していない町名別の面積から考察するなど、細やかなデータに基づく新たな幹線、支線のイメージに説得力を感じました。本市では新たな公共交通として平成26年にBRTの導入を目標としていますが、まずは現状を見直す必要があるのではないのでしょうか。



現在のバスロケーションシステム